

差出人：川江英樹
宛先：みらいカフェ
日時：2016年2月14日 19:11:27

「若いね」とか「素直な心を持っているね」と、
ぼくが言われるのはなんで？
子供っぽいってことなのかな？
じゃあ、大人ってなんだろう？

好きな仲間だけでなく、色んな人達が何かの縁
で集まったみらいカフェ。この仲間みんなで遊び
たい。おしゃべりしたい。と、ぼくはみらいカフェ
の活動を通して思った。

でも、これはぼくの想い。活動をしていく中で、
カフェのみんな、美術館スタッフにもそれぞれの
想いがある事に気がつくようになってきた。

人間はひとりで生きているように思えても、実は
沢山の人と関わって生きているっぽい。それによ
り、ぼくという人間が形作られていくのかな？
んじゃあ、みんなもそれぞれの過程を経てそれぞ
れの今があるのかも。
ということは、みんなを作って形作ってきた過程
が異なるんだから、考え方やモノの見方も異なる
のも当然なんじゃないだろうか。
たとえ自分と考えが異なっても拒絶するんじ
ゃなく、「相手はそういう考えだ」という事を認め
受け入れることで、自分の視野も広がるかも。

「まるびいみらいカフェ」のチラシを見直す。
定型文として読み飛ばしていた応募要項には「互
いを尊重しあって活動できる方」と書いてあった。

ああ、もしかして、他人を尊重して行動するって
事がオトナになる事に繋がるのかもしれないなあ。

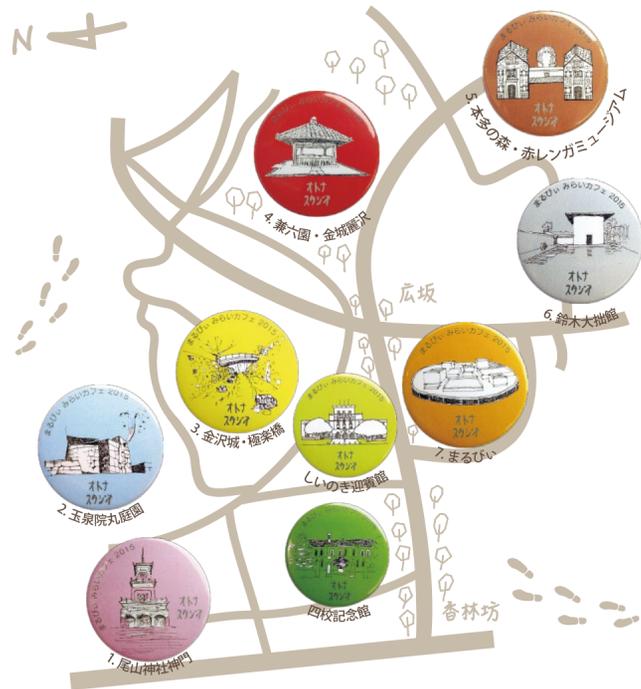
マイケル・リン 《市民ギャラリー-2004.10.09 - 2005.03.21》
写真：齊田かおり



みらいカフェだより #1

2016 Spring

「まるびいみらいカフェ」は、まるびいと金沢の街の
より良い「未来」について考える人々が集まる、場所や活動の総称です



まるびい ご近所めぐりマップ

p.4 で紹介した「みらいカフェのまるびいご近所
めぐり」でお散歩したコースをご紹介します。
写真の缶バッジは各所で出題されたクイズに正
解すると参加者にプレゼントされました。

1. 尾山神社神門 / 神門には珍しく、ステンドグラスがはめ込まれています。洋風と中国風がミックスした、竜宮城の様な不思議なスタイルは見る人を魅了します。
2. 玉泉院丸庭園 / かつて斜面を階段状に流れ落ちていた滝の水源は、遠く犀川上流の辰巳にあります。トンネルで引き込まれ、逆サイホンを利用して金沢城内へと汲み上げられていたとのこと。
3. 金沢城・極楽橋 / 金沢城の前身は一向宗が創建した尾山御坊ともいわれています。寺の周りの寺内町には商人の出入りもあり、尾山は「百姓の国、極楽の世界」とも呼ばれていました。
4. 兼六園・金沢麗沢 / 兼六園には「奥の細道」の旅で金沢に9泊したといわれる松尾芭蕉の句碑があります。「あかあかと日は難面もあきの風」。金沢神社の御神水は金城麗沢の霊水を汲み上げています。
5. 本多の森・赤レンガミュージアム / 国の重要文化財でもある県立歴史博物館の建物は、かつて陸軍兵器庫や金沢美術工芸大学として使われていました。
6. 鈴木大拙館 / 金沢生まれの仏教哲学者・鈴木大拙の足跡をたどれる記念館。水鏡の庭の前では国内外の人々が瞑想に耽ります。禅とは何か知りたい人はぜひ見学を。
7. まるびい / おすすめの一つは《スイミング・プール》。底から見る青空に、まるで天から手招きしているような影が映る神秘的な空間。美術館はガラス張りの壁で開放感があり、世界中から見学者が訪れます。

(村中泰雄)

みらいカフェだより #1

編集：黒澤浩美 / 森絵里花
デザイン：能登デザイン室

発行
金沢 21 世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]
〒920-8509 金沢市広坂1丁目2番1号
電話 076-220-2800 <http://www.kanazawa21.jp>
印刷 株式会社 山越
2016年3月発行

【まるびい みらいカフェメンバー】 (五十音順)

赤塚理恵 石田道房 岩垣豊 岩崎木綿子 岩本真希子 鷺沢一子 小野純子 金津史佳 川江英樹 川守さくら 熊野美香 小泉希望
古源祐美 越田瑞葉 越野節子 齊田かおり 佐伯真由 斎藤菜青 新開愛 高岡幸子 直川泰久 長田あかり 西川幸洋 西野優香
仁歩義晴 野村信行 旗博子 林朋子 姫野知佳 福田雅幸 細川令子 本多瑠美 松本収子 宮川俊則 宮本夏穂 村中泰雄 浦波理絵

【スタッフ】(金沢 21 世紀美術館)

黒澤浩美 木村健 高橋洋介 森絵里花 渡辺秀亮 片石憂衣



まるびいで「ちょっと」楽しい時間を

まるびい（金沢 21 世紀美術館の愛称）のある広坂を貫く百万石通りには、見事な桜並木があります。

通りは西に香林坊、北へ金沢城や兼六園へと続き、交差する本多通りから桜坂を見て犀川沿い辺りまで、桜が満開になる 4 月上旬は市中でもひときわ華やぐエリアです。

まるびいの広場にも美術館の建物が出来る前から育つ桜があって、今年も立派な枝を上げ淡い色の花をつけることでしょう。

まるびいの建物の壁はガラスなので、広場の沿路をちょっと歩く間にも美術館の中の様子がみとれます。

4 カ所ある出入口のうち南西側の柿ノ木畠口からはアートライブラリーが近いので、色違いのスワンチェアに座ってちょっと雑誌をめくるのはいかがですか。

透明な扉越しにパトリック・ブランの《緑の橋》を眺めることもできます。

ご近所だったら芝生でランチか、ちょっとコーヒープレイクはいかがですか。

保育園や小中学校の元気な子ども達が、伝声管の作品《アリーナのためのクランクフェルト・ナンバー3》に向かって友達に呼びかけていることもあります。

真似してちょっと話しかけてみると、知らない誰かが応えてくれるかもしれません。

夕方の帰り道に広場まで来たら、美術館内にある「タレルの部屋」にちょっと立ち寄ってみませんか。

暗闇に包まれる少し前に、自然光とネオンの光が入れ替わる瞬間に巡りあえるかもしれません。

暖かくなれば広場の銀色の椅子に腰掛けて、ちょっと友達を待つこともできます。

遅くなった夜、広場の東側にあるオラファー・エリアソンによる《カラー・アクティビティ・ハウス》はちょっとした色の灯台のようです。

訪れた人の数だけ「ちょっと」した楽しみが見つかるように、まるびいみらいカフェは、「ちょっと」楽しい美術館での過ごし方を提案していこうと考えています。

さて、きょうはまるびいで「ちょっと」何をしましょうか。

（黒澤浩美）



はたけから考えるみらい

収穫時期を終えた野菜たちが雪の下で新たな芽吹きを待つ冬。

まるびいの小さな畑「まるびい みらい畑」のこれからを考えたくて、中能登町でこだわりの野菜作りを行う「あながとう農園」を営む明星孝昭さんのところへ行きました。

明星さんが研修期間 2 年を経て、故郷である中能登町で就農して丸 4 年。無農薬にこだわり個性的な野菜づくりを独学で行っています。明星さんは 20 代に美容師や料理人、バックパッカーなど様々な経験をされました。そんな明星さんの考え方はクリエイティブで直感的です。「うちでしかできないことをしたいんです」自分の野菜を活かした料理のアイデアや未来にやってみたいこと、ワクワクの詰まった提案が明星さんからからどンドン言葉になって溢れてきます。「農家ってなんでもできると思いませんか？自分で作って、加工もできて、売り込むこともできる。大きな可能性・広がりがある」——でも世界を巡ってたくさん刺激を受けて、どうして農業なんですか？「直感です。いいことをしたいんです。人にも、環境にも。いいものにふれると人は元気になりますから」お客様からの評判も良く、注文は増える一方。けれど最近は自分のしたいこと、実現のためのバランスを思案中なのだそう。「ゆくゆくは仲間を集めて、山を買って、そこでみんなで宿を開きたいんです」そう言いながら明星さんの瞳は、これから出会う仲間のことや、自分が思い描く未来に向かって輝いているように見えました。

（片石憂衣）



プロフィール

明星孝昭（みょうせい たかあき）
1979 年生まれ。「より多くの品種の野菜を、それぞれの品種にあった栽培方法で生産する」を掲げ、自然栽培をベースにこだわりの野菜を作っている。
あながとう農園
<http://angatounouen.jimdo.com/>



写真：齊田かおり

あながとう農園訪問記

初雪が降る能登。吐く息は白く、その白い息を子ども時代は光線だ！と喜んでいました。同じ石川でも能登は昔のなつかしさが今でも残っているような場所なのか、子ども心を思い出させてくれます。自然界の植物たちも冬の寒さを乗り切るために人間と同じく栄養を蓄えるそう。雪の降る畑で明星さんの育てた野菜を食べさせてもらいました。能登の豊かな自然の土と水のみで育てられた野菜は生命力にあふれ、野菜自体の甘みが口の中にひろがり、野菜の良さが伝わります。大切な人、家族、仲間。これから、大切な人になる人々。そんな人達と分け合いたい野菜。「あながとう農園」ありがとうが言葉のようにひろがるように。➤

みらい畑の土はどこか懐かしく優しい香りがします。きっとだれでも一度は泥団子を握ったことがあるでしょう。バサバサした土に水を与え、泥を固めていくと違う香りになる。そこからゆっくりと形を作り、壊れないように表面を滑らかにしていく。きれいな泥団子が作れた時はとてもいい気分になって子供ながらに良い仕事をしたなど、はにかみながら家に帰りました。自然なあたたかさ、人の温かみを思わせるみらい畑は、友との砂遊びを思わせます。子どもの時、誰とも先入観なく笑顔で泥団子を作れました。砂場にはいろんな友がいたことを覚えているでしょうか。（本多瑠美）

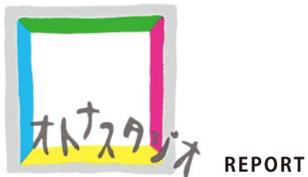


メンバーエッセイ

まるびいみらい畑 通信

まるびいをぐるりと廻るうちに見つかる場所。それが「まるびいみらい畑」。去年も様々なハーブ、オクラ、藍や白菜、大根・・・目にも楽しく美味しい作物がたくさん実りました。夏にはみんなで水やりや手入れをしたり、冬には収穫した野菜で鍋をしたり。元気に育つ植物の姿は 1 年を通して来館者はじめ美術館スタッフ、まるびい全体に嬉しい波紋となって広がりました。





大人になって忘れていたこと、やってみたかったことはありませんか？
金沢 21 世紀美術館には「キッズスタジオ」という子供たちのための基地がありますが、
大人たちももっと気楽に、モノに触れることや表現することを思い切り楽しもう！
と始まったのが「オトナスタジオ」です。

vol.1 ダンボールでオトナなカタチをつくろう

2015年8月18日

大人が思いっきり手を動かしたり、自由に考えを巡らせたりする瞬間があったらいいな。私が
そう思ったきっかけはまるびいの 10 周年記念のイベントでみらいカフェが行ったワークショ
ップです。老若男女みんなが楽しんでいただけ、特に楽しんでいたのは子ども以上に大人でした。
「大人も純粋に遊びたがっているんだなあ…」と感じました。大の大人が、大人げなく心と体を
放り出して、無邪気になれる場と空間を設けたい！そんなコンセプトのもと、段ボールを使って
大きな作品をみんなで作るワークショップ、「ダンボールでオトナなカタチをつくろう」が生ま
れました。

当日はまるびいの交流ゾーンの一角で年齢も職業も違う知らない大人がグループを作り、普段
の生活をしばし忘れて「オトナな形とは？」と頭をひねりながら汗だくでダンボールと戯れる姿
がありました。集中して手を動かすことの爽快感、初めて会った人たちが即興で作品を創り上げ
ていくワクワク感。2 時間では足りないくらいの濃密なひとときでした。できあがった「オトナ
なカタチ」は、尖っていたり丸かったりどれも魅力的で、その人その人の「オトナ感」が垣間見
えました。

(岩本真希子)



下右：作品名は「天照への試練の道」女性が試練を乗り越えた先をイメージしました。

参加者に聞きました。あなたのオトナのイメージは？

- ・混在しているイメージ / 社会のリフジンさ
- ・なにかを乗り越えた後においしくいただくお酒
- ・ビルにいるんな人がいる / ごちゃまぜ
- ・女性 / コンサバ / 社会や束縛からの解放
- ・ニガウリ / 大人の味 / トゲトゲ・痛み⇄丸くなる・川の小石



絵：岩本真希子

vol.2 みらいカフェ的まるびいご近所めぐり

2015年11月7日

京都では哲学の道、鎌倉では北鎌倉の寺社を巡るコースが有名ですが、いずれも金沢出身の哲
学者・西田幾太郎・鈴木大拙が関わって誕生したことはご存知ですか？余り知られてはいた
ませんが彼らが少年・学生時代を過ごし散策したであろう、金沢周辺の不思議な建物や歴史遺構や熊
も住む森こそ、彼らの哲学的・禅的思想の起源となる場所だと思えます。その結果がまるびいを
始め、鈴木大拙館等、世界的に有名になった建築群を金沢に出現させる事になるのでは？そこで、
彼らがかつて散策したであろうコースを「金沢七不思議の散歩道」としてめぐることになりました。
竜宮城のような神門から始まり、空中庭園に落下していた滝の水源の謎、百万石に隠された百姓
の治めた極楽浄土の国の謎など、まるびいを出発して約 2 時間をかけて金沢城付近の七つの不思議
なスポットを歩くご近所めぐりを楽しみました。多くの参加者からもう一度参加したい、との
好評も得ました。当日のコースは p.8 のご近所マップでご紹介します。

(村中泰雄)



下：ご近所めぐりの途中に金沢城公園で記念撮影。まるびいに戻ると写真をプレゼントしました。

各所ではみらいカフェメンバーからクイズが出題されました。
その 1 つにあなたも挑戦！（答えは 7p の欄外に）

近年、金沢城公園で捕獲され話題になった動物は？



まるびいに戻ってくると、
今日歩いた道を名付けました。

「新しい発見の道」「過去と未来をつなぐ路」
「わき道に秋を楽しむ」「秋風道」など、
みなさん素敵な「道の名前」を考えてくれました。



vol.3 まるびいビブリアいいね！

2015年12月12日

時々アートライブラリーを利用しているのですが、もっと活用する人がいればいいのに、もっ
たないと感じていました。そこで好きな本を紹介しあうビブリアバトルをみらいカフェで提案
しました。発表に順位を付けるバトルという表現はまるびいに合わないと感じ、最適な本とその
紹介に「いいね」と共感しあう場にしたいと考え、ビブリアいいねというタイトルにしました。
当日は 6 名の方が順番にイチオシの本を紹介し、聞いた方からの質問に答えるなど賑やかに進み
ました。バトルではないのでチャンプを決めず、それぞれの本に「読みたイネ」「飾りたイネ」
「手元に置きたイネ」を選び、紹介者全員に記念の缶バッジを贈呈しました。終了後はキッズ
スタジオでフリートークのお茶会を開き、より深く話しあったり別の本を紹介したりと楽しい時
間を過ごしました。このイベントでアートライブラリーと本の魅力を発信するお手伝いができ
たかと思います。ぜひ継続して開催できればと思います。

(岩垣豊)

ビブリアいいね！で紹介された本はこちら！

- 内沼晋太郎『本の未来をつくる仕事 / 仕事の未来をつくる本』朝日新聞出版 (2009)
文：ジョセフ・ダグニーズ 絵：ジョン・オプライエン 訳：渋谷 弘子
『フィボナッチー-自然の中にかくれた数を見つけた人』さえら書房 (2010) 絵：青田かおり
駒形克己『ぼく、生まれるよ！』ONE STROKE(1995)
瀬戸内寂聴『夏の終り』新潮社 (1966)
駒形克己『空が青いと海も青い。』ONE STROKE(1995)
矢島陽介『Ourselves / 1981』私家版 (2015)



ガラス裏りのアートライブラリーで(絵本や写真集など)多彩な本が紹介されました。

vol.4 オトナバー

2016年2月20日

お酒とアート。なんとなくおしゃれな感じがしませんか。食事やお酒とともに作品をリラックス
して楽しむ機会があると楽しいのでは、と思い「オトナバー」を企画しました。今回はまるびいか
らほど近くのアートを楽しむのにぴったりな「白鷺美術」のご協力のもと、参加者が持参した作品
や作家の話を楽しむ会を開きました。輪島塗の小品は、光の具合で色や輝きが変わるさまを手元
に作品を置き、ペンライトで照らしながら鑑賞しました。ガラスの作品を紹介した方からは温度な
どの外部環境によって作品が変化するのを楽しんでいるという話も。作家の話では地道な制作工程
や作業などの話が印象に残ります。参加作家とそのコレクターのトークではコレクターは作品や作
家への想いを、作家は作品の背景やこだわりを話していただき、時間いっぱいまで楽しく賑やかに
過ごしました。参加された方からは知らなかった作品に出会えた、作家さんの話を聞くことができ
て良かった、雰囲気良かった、との感想がありました。アートを気軽に楽しむ場の一つとして、
このような企画もありかな、と実感した 1 日でした。

(岩垣豊)



「どうぞみなさんの手元で見てください」とのコレクターの一言でこんな間近に見る場面も。

参加した作家の中川暁文さんからひとこと

興味を持って話を聞いてくださる方が多く、楽しかったです。
トーク前の、参加者の方同士で話す生の感想をあとで聞くこ
とができ作品の意図を汲み取って共感してくれていたのがわ
かったことも貴重な体験でした。



絵：岩本真希子

コレクターこぼれ話

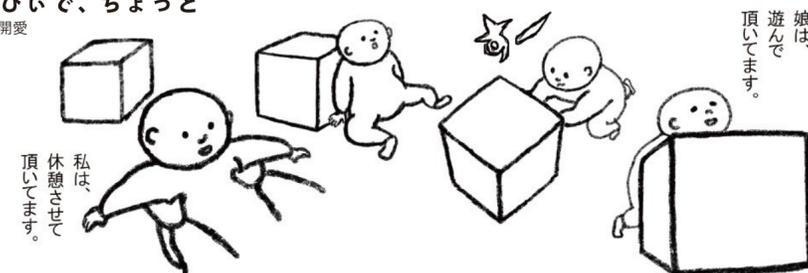
ある方は作品を寝室に飾っているそう。穏やかな表情をした女性が描かれた、祈りをテーマ
にした作品で「安眠効果があるのかも」と話してくれました。
輪島塗のお椀を持ってきた方は「器は使わないとね」とのお言葉。どのように使うか聞くと
「親子丼を食べるのが好きです」。想像すると、とても賢みな気持ちになりますね。(森絵里花)

キッズスタジオにも来てね。

金沢 21 世紀美術館にある子供たちのための基地、
それがキッズスタジオです。
週末には「ハズオン・まるびい」、平日にも「す
くすくステーション」などの子供たちがのびのび過
ごしたり、発見や表現の出来るプログラムを用意し
ています。
子供から大人まで対象としている日には大人だけ
でも参加 OK です。自分もこんなことやってみたい！
と感じた人はぜひ、スタッフに声をかけてください。

まるびいで、ちょっと

作：新聞愛





REPORT

金沢21世紀美術館に来たら、展覧会のチケットはどこで買えるの？
本で見たあの作品はどこにあるの？ ちょっと座って落ち着ける場所はないかなあ？
「まるびい案内」ではそんな皆さんの声をみらいカフェメンバーが聴きながら、美術館での時間を楽しめるようご案内しています。



まるびいを訪れる大勢の来館者の皆さん。外からは中の様子が見え、内からも外の様子が見える、円形のガラス張りの建物。現代アートの世界へ飛び込む・・・心が浮き立つ楽しい気持ちと共に、どこがどこか見失うような心細い気持ちにもなるかもしれません。「私たちはまるびいが大好き！」「来館者の皆さんと共にまるびいの魅力をたくさん見つけてもっとドキドキ、ワクワクしたい。」「笑顔と笑顔の出会いがたくさん生まれるといいなあ。」これが「まるびい案内」の始まりでした。

4月4日

まず私たち自身がまるびいをもっと知ることから。まるびいの建築に関わった建築士・吉村和博さんと共におしゃべりしながら、建物についての勉強会。



5月、6月

お客様とお話しすると館内はもちろん、他の施設への行き方などのご質問も多くなりました。より伝わりやすいようにと資料やマップを自分たちで作りました。



7月18日-20日

(海の日のある三連休)
7月18日は活動初日。ドキドキ・・・具合が悪くなったお客様に対応したり、武家屋敷など周辺施設への道案内もしました。“こんにちは”“ありがとうございます”笑顔で挨拶するとお客様もにっこりと返してくれました。20日からは館内の様子を見て総合案内前でも活動することにしました。

8月16日、17日

(お盆の時期特別開館)
日差しがまぶしい真夏のまるびい。案内の助っ人に「みカエルくん」が登場。17日は特別開館日の月曜日。予想以上に来館のお客様が多かったのも活動してよかったです。みカエルくんは来館者の皆さんの人気者。彼？がいてくれたから、声をかけやすかったと言ってくさるお客様も。



9月19日-23日

(シルバーウィーク五連休)
総合案内前に長蛇の列。人、人、人!! チケット購入待ちの列を指さして「これは何の列ですか?」という質問が続出。



10月10日-12日

(体育の日のある三連休)
地図を見て通れると思った通路が通れず、怒って訴えにこられたお客様もいました。マイケル・リンの作品が見たいということでメンバーが丁寧にご案内。館内を見て廻るのに困った時もサポートします。

11月21日-23日

(勤労感謝の日のある三連休)
展示替え期間のため「レランドロのプール」の下に行けずがっかりされるお客様に他の展示をご案内したり、「よかったら、またいらしてくださいね」とお声がけ。

12月12日、13日

(金沢市民美術奨励の日(☆)と日曜日)
冬になり来館者数が一時期より減ってきたことを実感。まるびい案内も午後時間帯を変更してみるとうれい感じました。



1月9日-11日

(成人の日のある三連休)
兼六園の雪吊りに雪がなかったと残念がる年配の男性のお客様から「また来年来ます」とお話がありました。その2週間後に雪！また来年お待ちしております！



そして一歩先の活動へ

次はお客様と一緒にまるびいをおしゃべりしながら回りたい・・・というメンバーもいて、展覧会休場日にまるびいおしゃべりツアーや、年配者の方と共にまるびいを回るツアーを計画中です。



※毎月第二土曜日は金沢市民の方はコレクション展を無料で観覧できます。(要証明書)

参加メンバーからひとこと

- 🍃 気を楽に たずねて まるびい 笑顔咲く (赤塚)
- 🍃 ありがとうのひとことに、感激！(石田)
- 🍃 質問されることで、まるびいを再発見できました (岩垣)
- 🍃 案内しつつ、自分も探検気分です (岩崎)
- 🍃 「若さ」に接して「背筋」を伸ばした～いなあ ^^との思いで参加しています (菊沢)
- 🍃 笑顔の伝染が楽しいです♪(小野)
- 🍃 自然に声をかけているメンバー石田さんがステキでした (川江)
- 🍃 ささやかな手助けが、素敵な思い出に繋がりは幸せ (川守)

- 🍃 お客様とお話できるのがとてもたのしいです(一) (齊田)
- 🍃 繋ぐお手伝い、そして繋がる喜び (佐伯)
- 🍃 多くの来館者の笑顔に会える事は、素敵な経験。感謝です。(高岡)
- 🍃 自分でも新たな発見ができ、楽しかったです!! (西野)
- 🍃 自分も楽しみながら、少しは役に立っているのかな (福田)
- 🍃 「チョットだけ.....が、深入りしよう！」(細川)
- 🍃 心から「ありがとう」「また来てね」そして笑顔 (松本)
- 🍃 まるびい案内...これこそが私たちのおもてなしです (宮本)
- 🍃 天空から、まるびいを望めるポイント発見!? (村中)

四つ葉のクローバー

見つけた時の心がビヨンと跳ねるような驚き、ときめき、そして喜び。まるびい案内を始めてから・・・私はまるびいの中に居ながら、何度もいろんな形の四つ葉のクローバーを見つけています。例えば、あるお客様は何気ないフレンドリーな美術館の雰囲気から「美術館の建物の中に入った」という実感がなかったのでしょうか、そのとき感じたままを私に伝えてくれた方があります。「21世紀美術館はどこですか?」と。そこから、笑顔での会話が始まりました。一期一会・・・もう二度とその方とお会いすることはないかもしれ

ません。でも、私の心の中に美術館が親しみをもって迎えられたという温かい思い出として残っています。そしてその方にも、私との会話が美術館での楽しい思い出の一つとなっていれば、こんなにうれしいことはありません。そして・・・まるびい案内の仲間一人一人が、たくさんの四つ葉のクローバーに出会い、一期一会の思い出を積み重ねて活動を続けていければ・・・と願っています。(林朋子)



メンバーエッセイ



岩垣 豊

1962年神奈川県横須賀市出身。コンピューターメーカー入社後1993年に転勤で金沢へ、2008年に独立。スキルを活かし聴覚障害者向けに講演などで字幕を表示する石川県登録パソコン要約筆記者としても活躍。

わたしのみらいカフェ vol.2

「まるびいと視覚障害者の橋渡しができたら」

みらいカフェメンバーは多様なバックグラウンドをもつ人が集まっています。それぞれの経験が美術館での活動と化学反応を起こすこともあります。今回は美術館での活動以外にも様々な方をサポートする活動に参加している岩垣豊さんにお話を伺いました。

(聞き手: 森 絵里花)

— 岩垣さんは美術館での活動の他にも様々な活動をされているとのことですが、例えばどのような活動をされているのですか？

活動の一つに、2011年頃から「石川県視覚障害者パソコン支援会の会(☆1)」という団体で視覚障害者の方が音声入力ソフトを使用する際の設定やトラブルの解決をするボランティアをしています。使い方を説明する際は「ここ」などの指示語では伝わらないため言葉を工夫しています。

— パソコン支援ボランティアを初めたきっかけを教えてください。

新聞で募集を見かけたのがきっかけです。それまでにボランティア活動をした経験はありませんでしたがパソコンが好きなことを活かせると思い応募しました。当時は人のために何かがしたいというよりは自分自身の特技を活かせることや興味があることに始めました。

— 支援活動を始めて変わったことはありますか？

それまでの生活は職場と自宅、休日の外出のみで金沢の人とつきあうこともあまりありませんでしたが、ボランティア活動を始めてから金沢の人と深くつきあうようになりました。

— 金沢21世紀美術館での活動を始めたきっかけはなんですか？

2010年のコレクション展でジェームズ・タレルの《ガスワークス》という体験型の作品のオペレーターを募集していました。パネルなどの機器操作などに関心もち、参加しました。活動の際はオペレーションのほか、他のメンバーがやりやすいようにオペレーションマニュアルを見やすく整えたりもしました。

— その後、市内の小学生とアートの出会いを作るプログラム「ミュージアム・クルーズ」のクルーズ・クルー、「みらいカフェ」メンバーなど美術館でも様々な活動をされているほか日常的に美術館で過ごされていますね。何か印象に残ることはありますか。

まるびいに来た！

作：岩崎 木綿子

